

2026年 3 月期 第 2 四半期（中間期） 決算補足資料

株式会社 き も と

2025年10月30日

1 2026年3月期 第2四半期（中間期） 決算について

2 2026年3月期 通期業績予想

3 高機能材料事業

4 デジタルツイン事業

5 第6次中期経営計画進捗

6 会社概要

2026年 3 月期 第 2 四半期（中間期） 実績 前年比 [連結]

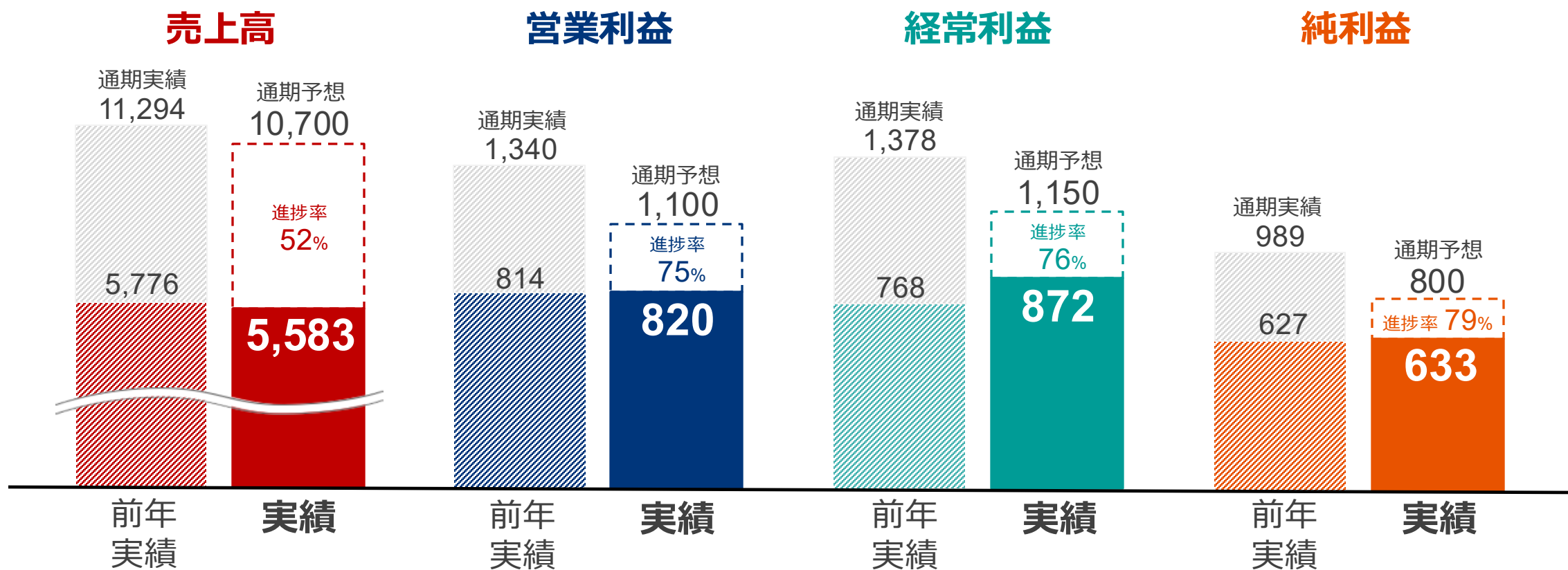
■ 通信機器・産業機器向け製品は米国の関税措置による影響がほとんどなかったこともあり堅調でしたが、自動車産業全体の低迷により輸送機器向け製品が伸び悩み、バッテリー関連も顧客による生産計画見直しで想定を下回りました。

	2026年 3 月期 通期 予想	2026年 3 月期 中間期	2025年 3 月期 中間期	増減	増減率(%)
単位：百万円					
売 上 高	10,700	5,583	5,776	▲ 192	▲ 3.3
売 上 総 利 益	-	2,332	2,332	0	0.0
販 売 管 理 費	-	1,512	1,517	▲ 5	▲ 0.4
営 業 利 益	1,100	820	814	6	0.8
経 常 利 益	1,150	872	768	104	13.6
税 引 前 利 益	-	872	795	76	9.6
純 利 益	800	633	627	6	1.0
一株当たり純利益（円）	17.40	14.05	13.60	-	-

損益計算書 前年・予想比 [連結]

- 通信機器向け製品や工程材料向け製品が米国の関税措置の影響をほとんど受けず堅調に推移したことに加え、産業機器向けの一部製品の前倒し受注が発生したこともあり、高付加価値製品の売上が増加し、利益が予想を上回りました。

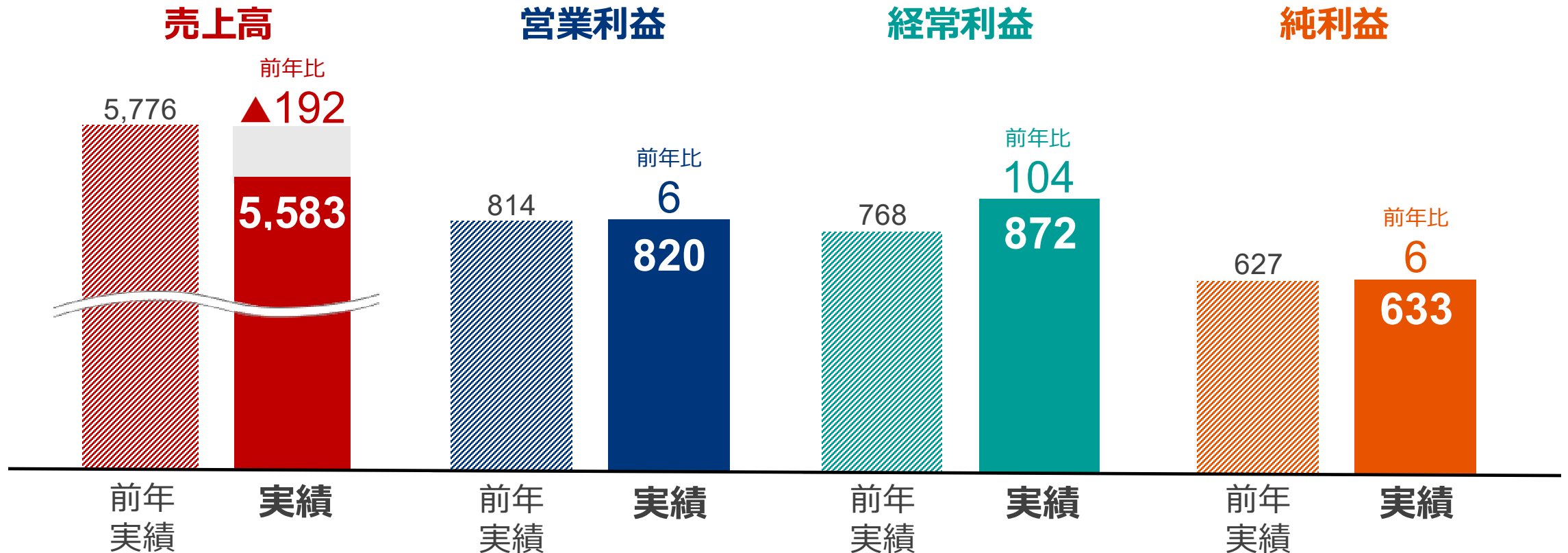
単位：百万円



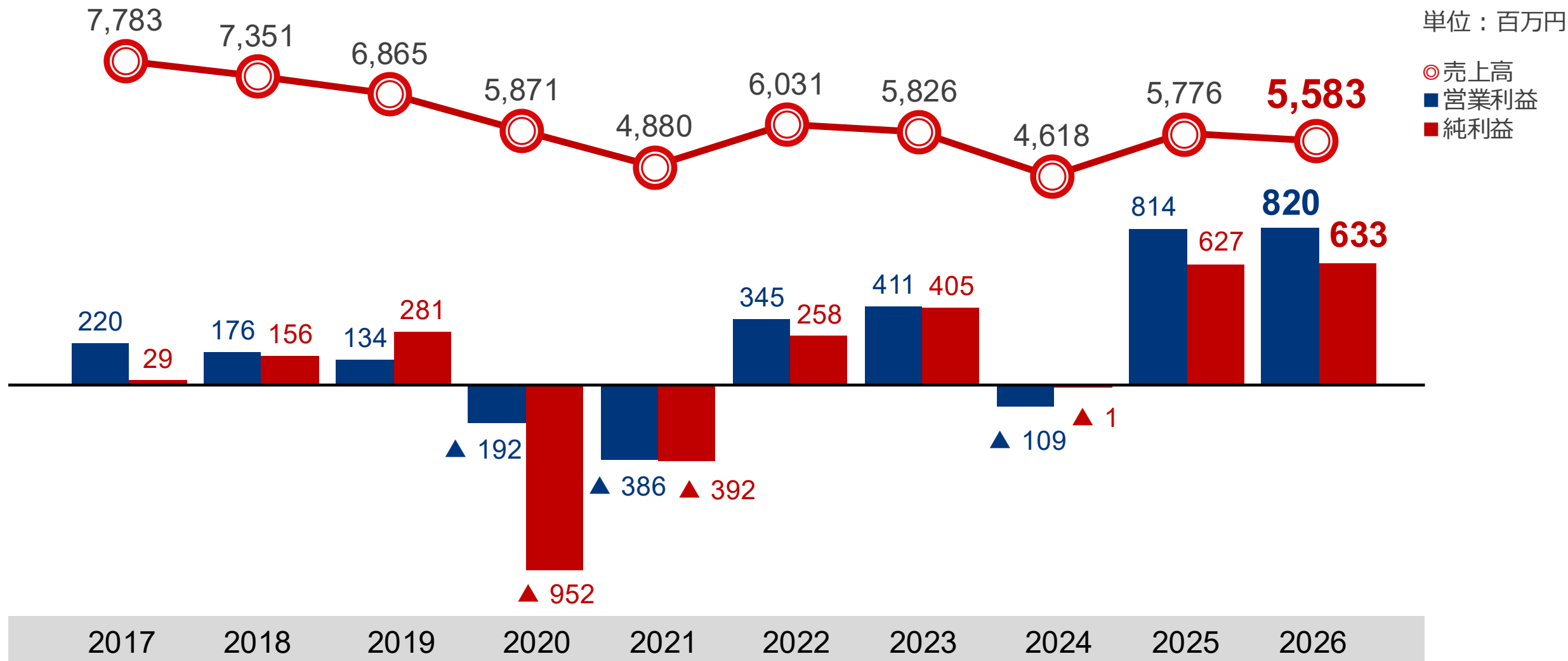
損益計算書 前年比・主な変動要因 [連結]

- 通信・産業機器向け製品は堅調でしたが、自動車産業全体の低迷や米国での稼働率低下、3D・LiDAR関連の受注減により一部収益が減少。高付加価値製品の拡販と効率化で収益性を維持しました。

単位：百万円



売上高・営業利益・純利益 [連結] 2017年3月期～2026年3月期 中間期比較



KIMOTOグループ業績

単位：百万円

		日本	アメリカ	スイス	中国
					
売上高	2026年 3 月期 中間期	5,243	319	264	35
	2025年 3 月期 中間期	1% DOWN 5,284	34% DOWN 486	34% DOWN 398	34% DOWN 54
営業利益	2026年 3 月期 中間期	963	▲ 105	▲ 6	▲ 36
	2025年 3 月期 中間期	829	▲ 24	37	▲ 30

※上記の売上高は内部取引を考慮しておりません。

KIMOTOグループトピックス

日本



通信機器向けでは遮光・粘着製品が堅調に推移し、輸送機器向けでは自動車産業全体の低迷により拡散製品が低調となりました。バッテリー関連も生産計画見直しで想定を下回りましたが、産業機器向けは価格改定前の前倒し需要で堅調を維持しました。

アメリカ



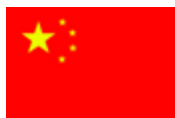
新規案件の失注で苦戦していますが、収益改善に向けて事業構成の見直しと営業戦略の再構築を進めています。

スイス



自動車産業全体の低迷の影響により、輸送機器向け製品の出荷が低迷しました。

中国



3D関連案件は減少していますが、点群図化の受注は増加中で、新規案件獲得に向け技術力強化と生産体制整備を進めています。

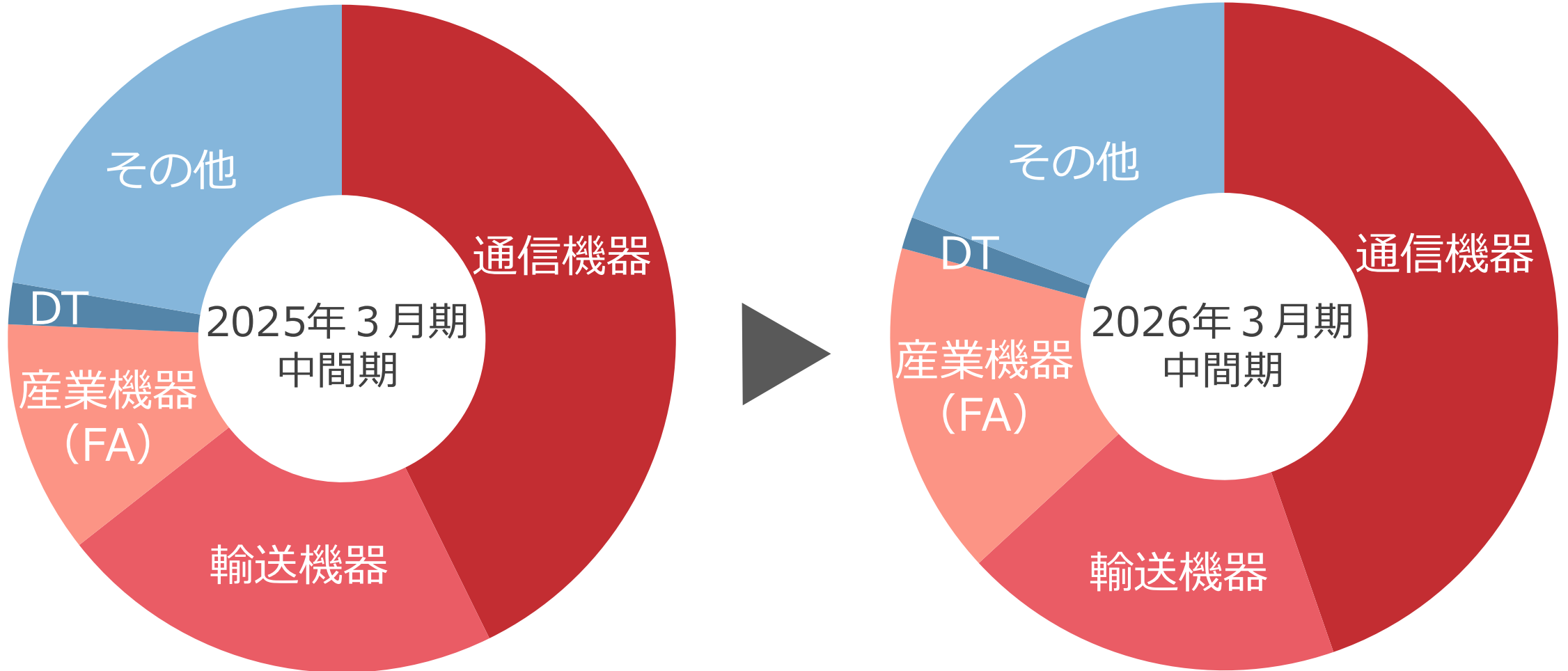
【日本】 売上構成

単位：百万円

	2025年 3 月期 中間期	構成比	2026年 3 月期 中間期	構成比	増減	増減率(%)
高機能材料事業	5,177	98.0%	5,161	98.4%	▲ 16	▲ 0.3%
通信機器	2,256	42.7%	2,342	44.7%	86	3.8%
輸送機器	1,145	21.7%	966	18.4%	▲ 179	▲ 15.7%
産業機器	596	11.3%	845	16.1%	249	41.8%
その他	1,178	22.3%	1,006	19.2%	▲ 171	▲ 14.6%
デジタルツイン事業	106	2.0%	81	1.6%	▲ 24	▲ 23.3%
3D	31	0.6%	17	0.3%	▲ 13	▲ 44.8%
2D	38	0.7%	37	0.7%	0	▲ 0.2%
コンサルティング	0	-	8	0.2%	8	2,425.1%
その他	37	0.7%	17	0.3%	▲ 19	▲ 51.9%

【日本】売上構成

■ 通信機器向け製品が堅調、また産業機器向け製品についても売上に貢献しました。



【アメリカ】 売上構成

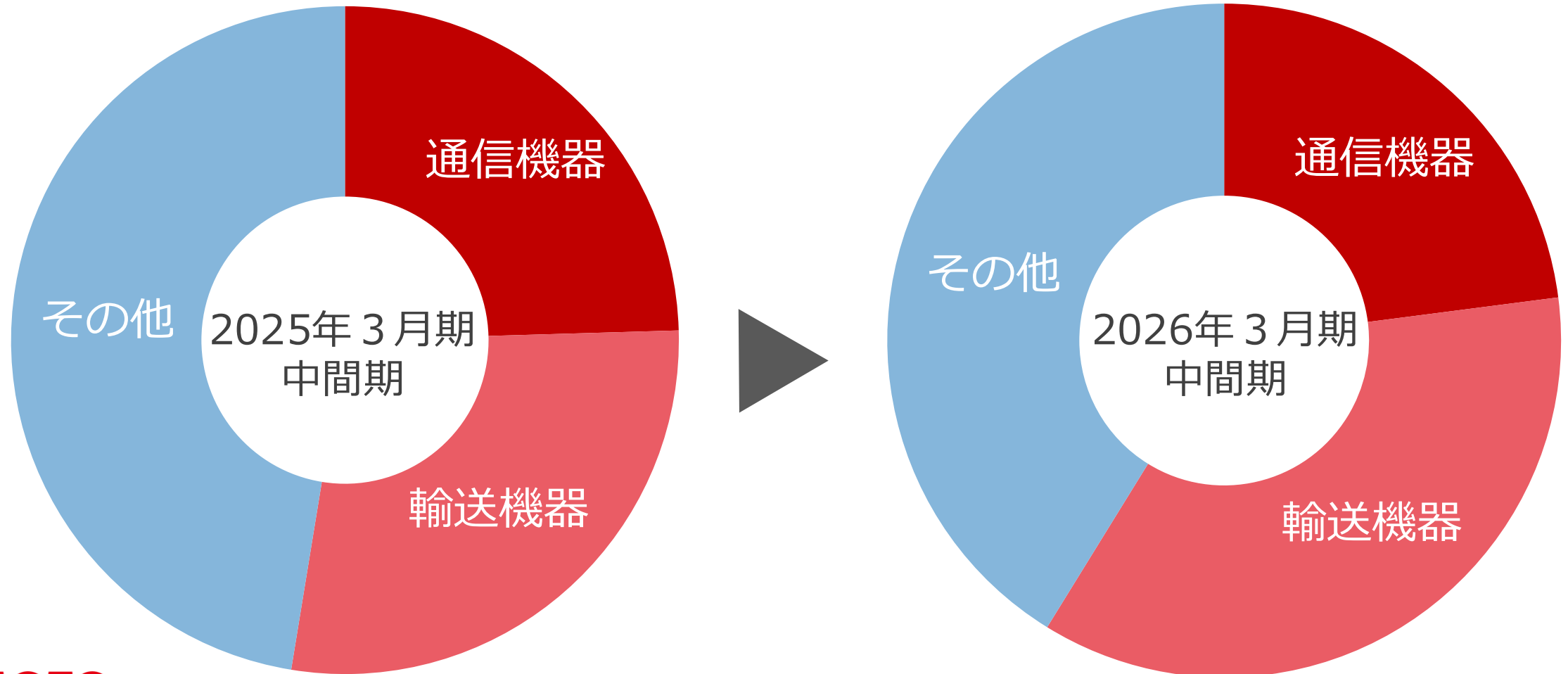
単位：百万円

	2025年 3 月期 中間期	構成比	2026年 3 月期 中間期	構成比	増減	増減率(%)
高機能材料事業	486	100.0%	319	100.0%	▲ 166	▲ 34.2%
通信機器	119	24.6%	73	23.1%	▲ 45	▲ 38.2%
輸送機器	136	28.0%	114	35.8%	▲ 21	▲ 15.9%
その他	230	47.4%	131	41.1%	▲ 99	▲ 43.0%

※上記の売上高は内部取引を考慮しておりません。

【アメリカ】売上構成

■自動車産業全体の低迷により輸送機器向け製品が低調、その他新規案件の失注も売上に影響いたしました。



【スイス】 売上構成

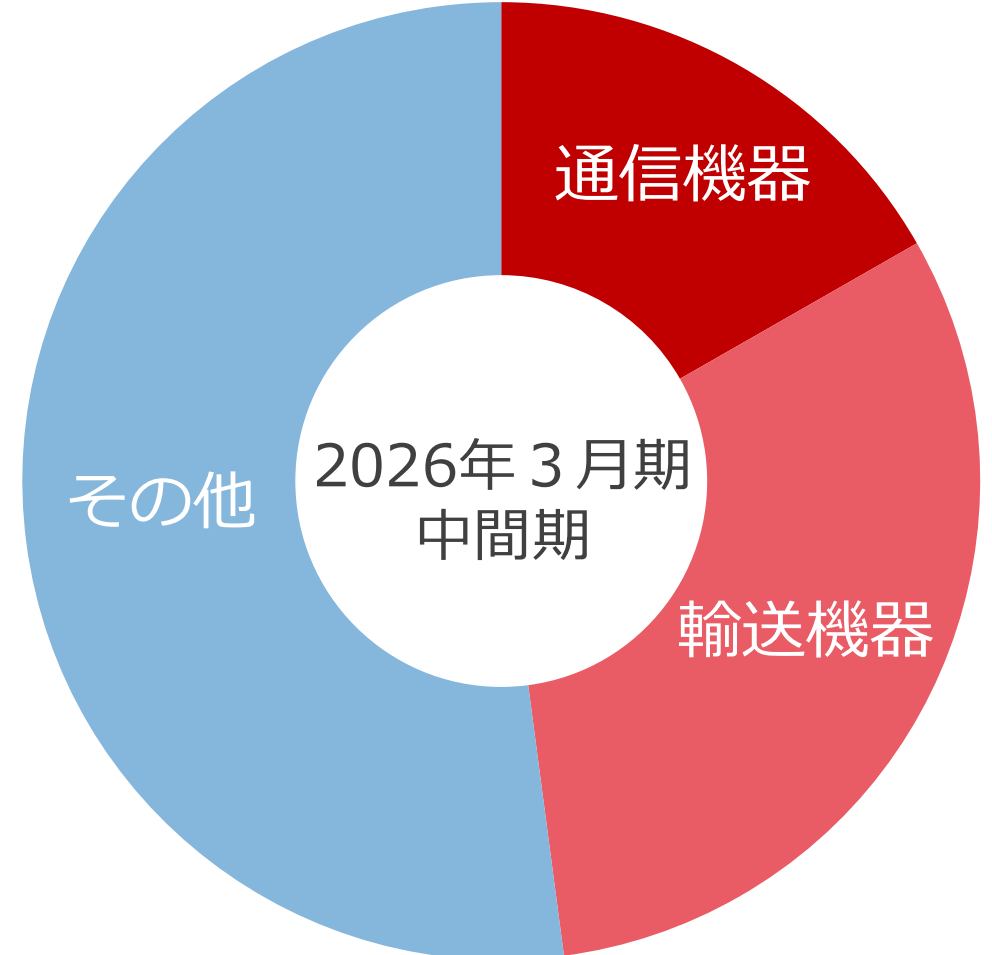
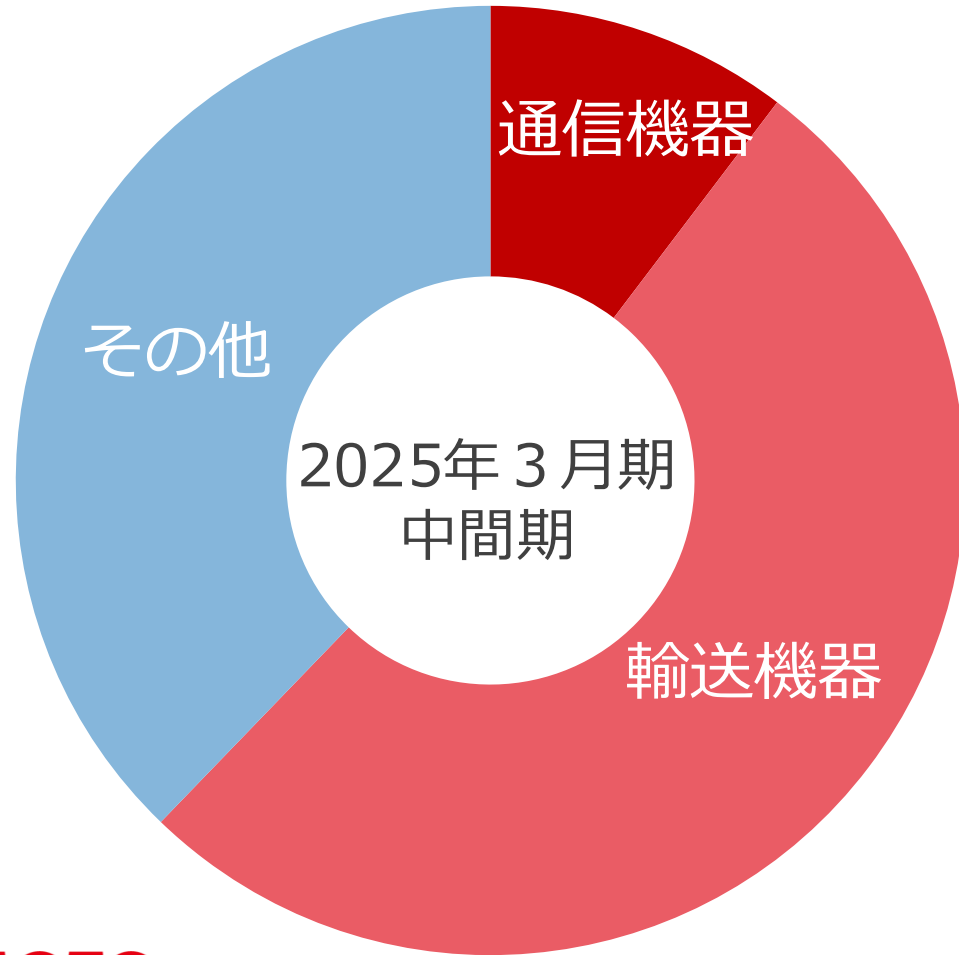
単位：百万円

	2025年 3 月期 中間期	構成比	2026年 3 月期 中間期	構成比	増減	増減率(%)
高機能材料事業	398	100.0%	264	100.0%	▲ 133	▲ 33.6%
通信機器	41	10.4%	44	17.0%	3	8.6%
輸送機器	206	51.7%	82	31.2%	▲ 123	▲ 59.9%
その他	150	37.9%	137	51.8%	▲ 13	▲ 9.2%

※上記の売上高は内部取引を考慮しておりません。

【スイス】売上構成

■ 自動車産業全体の低迷の影響により輸送機器向けの出荷が減少いたしました。



【中国】 売上構成

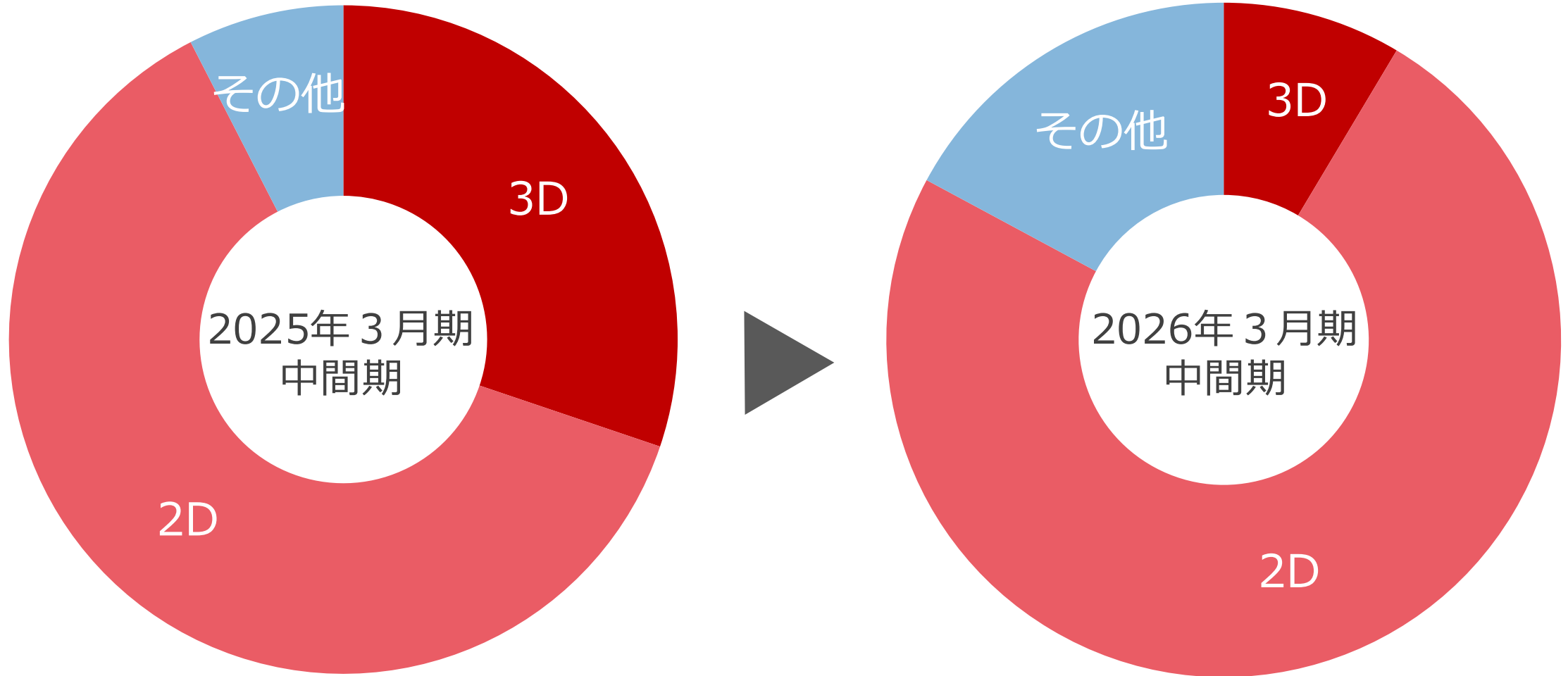
単位：百万円

	2025年 3 月期 中間期		構成比	2026年 3 月期 中間期	構成比	増減	増減率(%)
デジタルツイン事業	54		100.0%	35	100.0%	▲ 18	▲ 33.8%
3D	16		29.6%	3	9.7%	▲ 12	▲ 78.4%
2D	33		61.4%	26	73.5%	▲ 6	▲ 20.8%
その他	4		9.0%	6	16.9%	1	24.6%

※上記の売上高は内部取引を考慮しておりません。

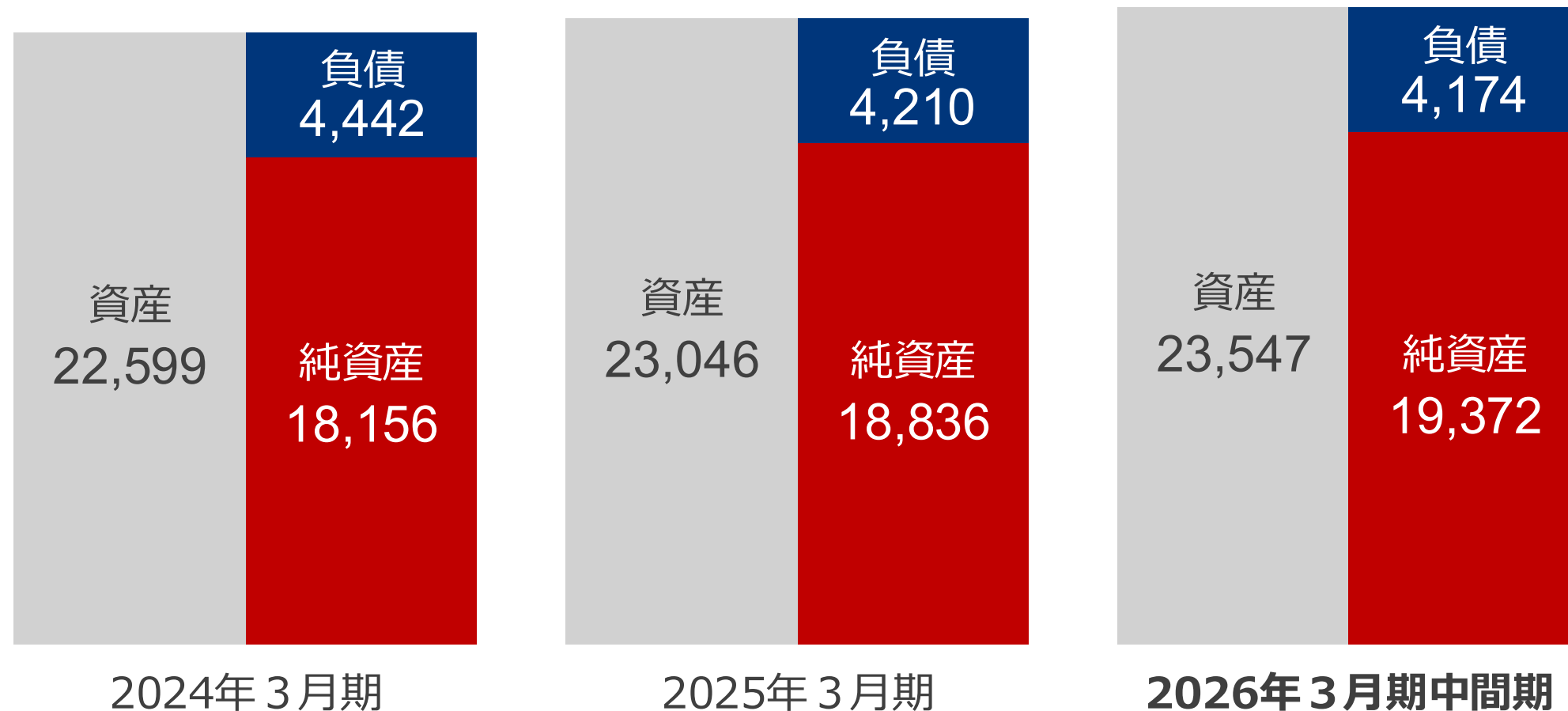
【中国】売上構成

■ 3D関連案件とソフトウェア開発およびLiDARの受注が減少したことにより売上、利益ともに低調となりました。



貸借対照表〔連結〕

2024年3月期～2026年3月期中間期 比較



2026年 3 月期 第 2 四半期（中間期） 貸借対照表〔連結〕 主な変動要因

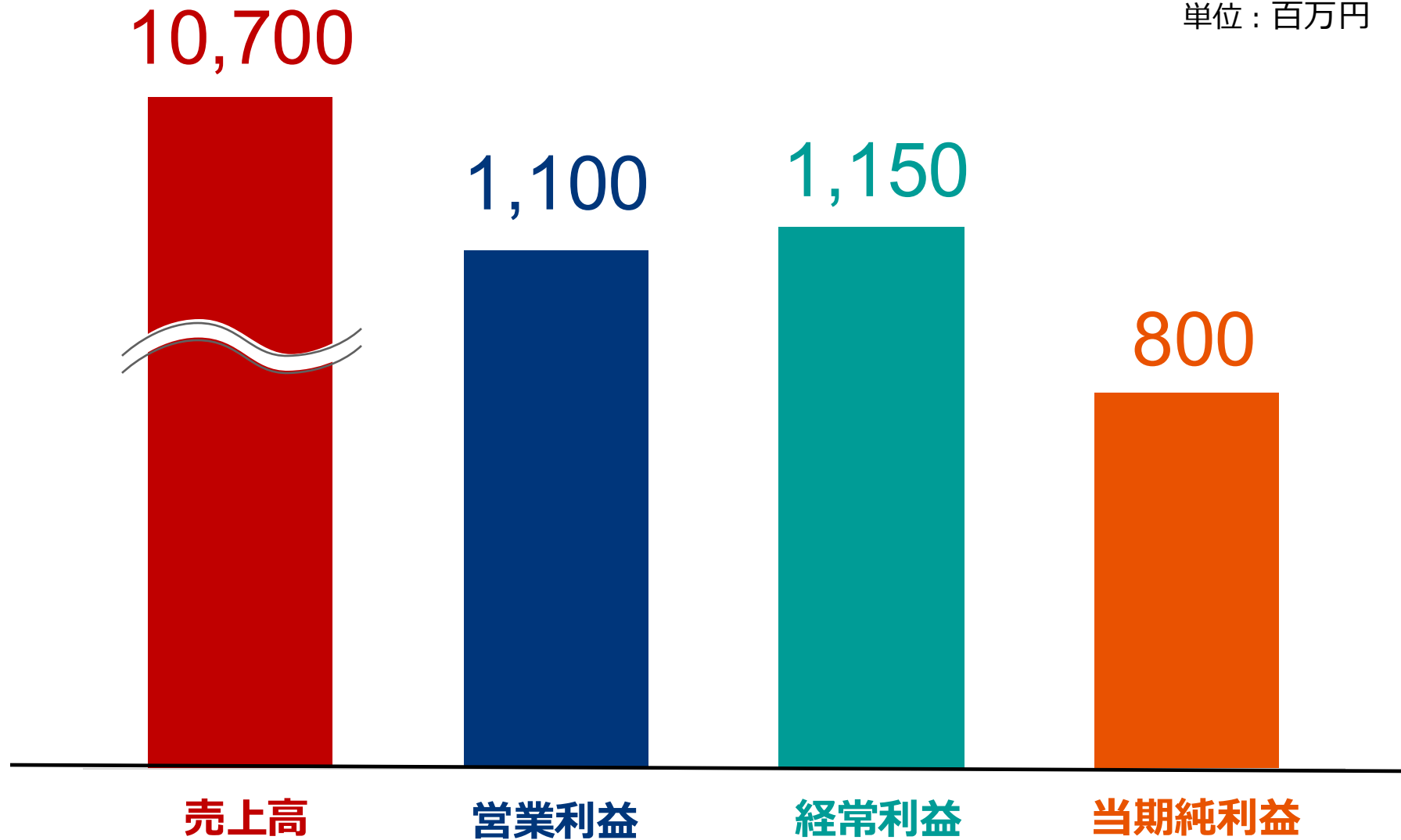
単位：百万円

資産	対前期末比	負債	対前期末比
501		▲35	
受取手形及び売掛金		未払法人税等	
262		▲108	
投資有価証券		営業外電子記録債務	
77		83	
工具器具備品			
68			
		純資産	対前期末比
		536	
		利益剰余金	
		408	
		為替換算調整勘定	
		93	

- 1 2026年3月期第2四半期（中間期）決算について
- 2 2026年3月期 通期業績予想**
- 3 高機能材料事業
- 4 デジタルツイン事業
- 5 第6次中期経営計画進捗
- 6 会社概要

通期業績予想 [連結]

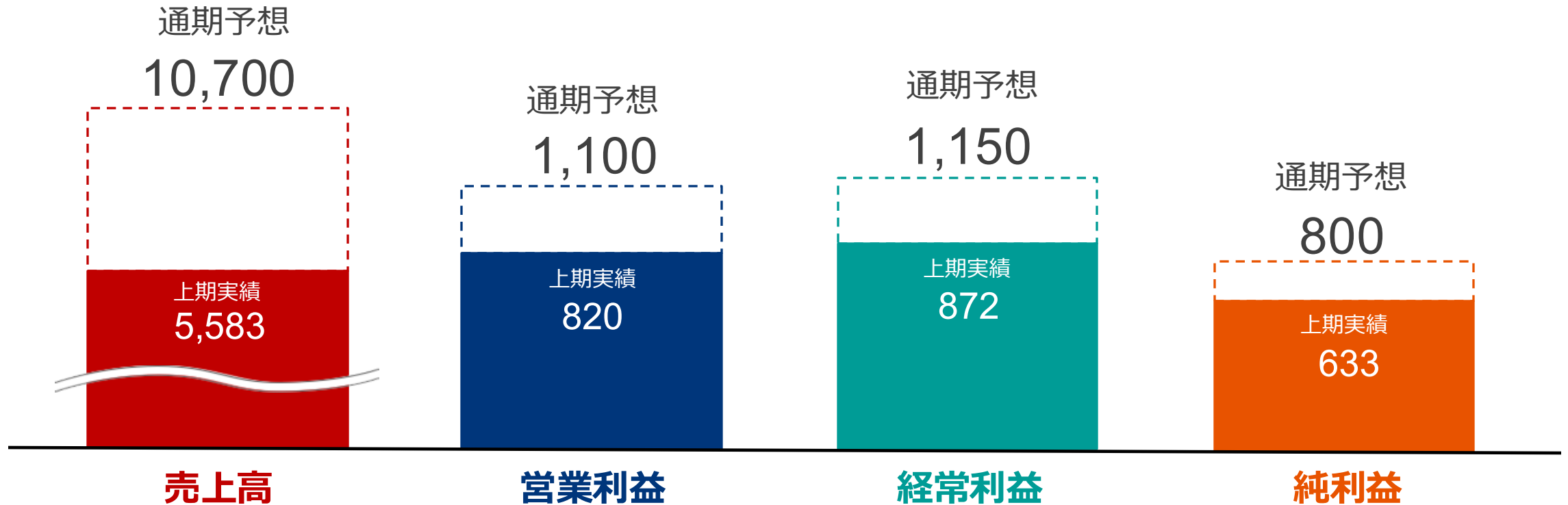
単位：百万円



通期業績予想 [連結]

- 当中間期業績は想定を上回る利益を計上したものの、上期には影響が見られなかった米国の関税措置の影響が下期以降に表面化することが予想されるほか、自動車産業全体の低迷からの回復見通しも依然として不透明であります。これらの状況を踏まえ、下期の事業環境や需要動向を慎重に見極める必要があると判断し、通期業績予想は据え置いております。

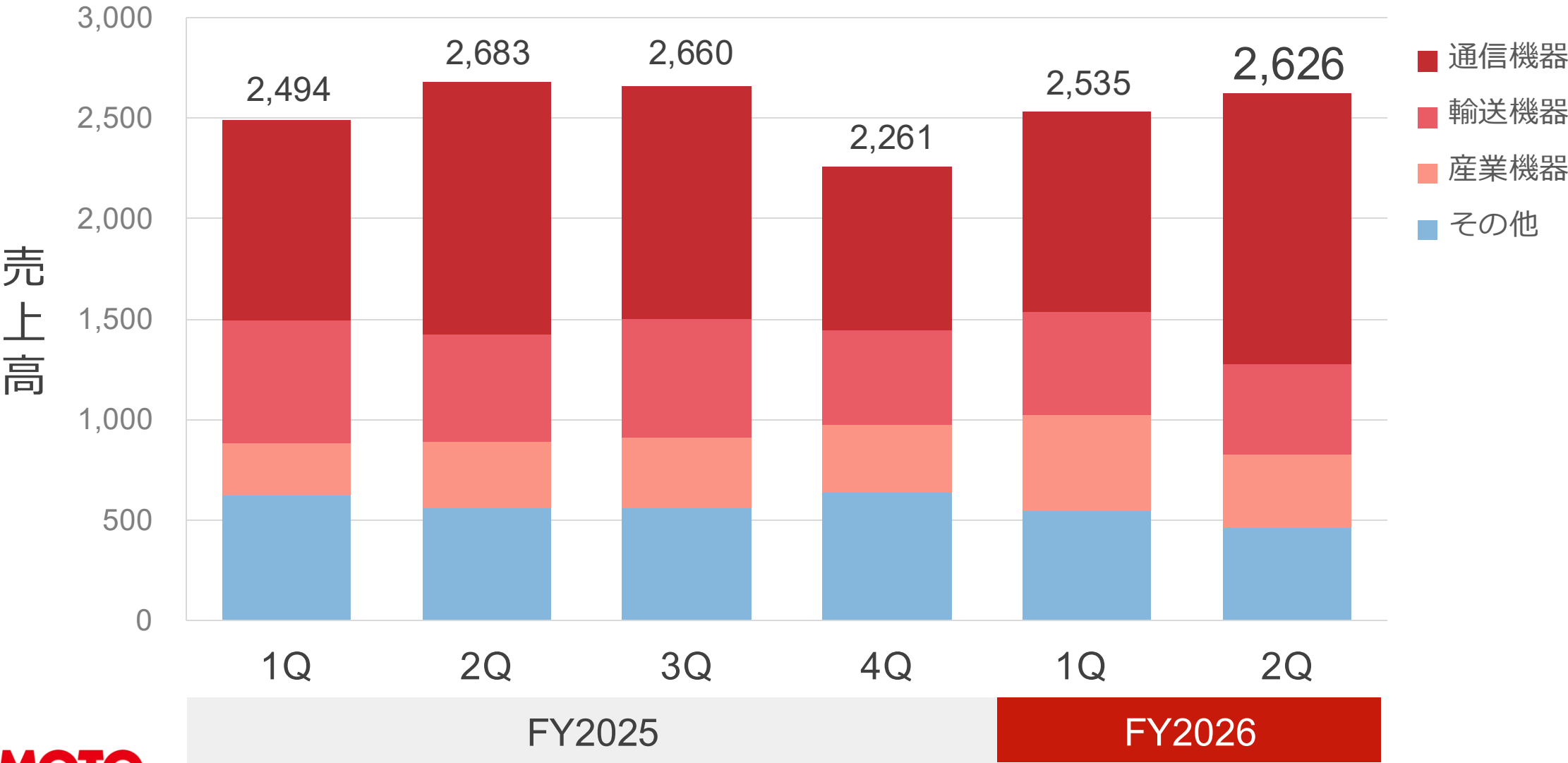
単位：百万円



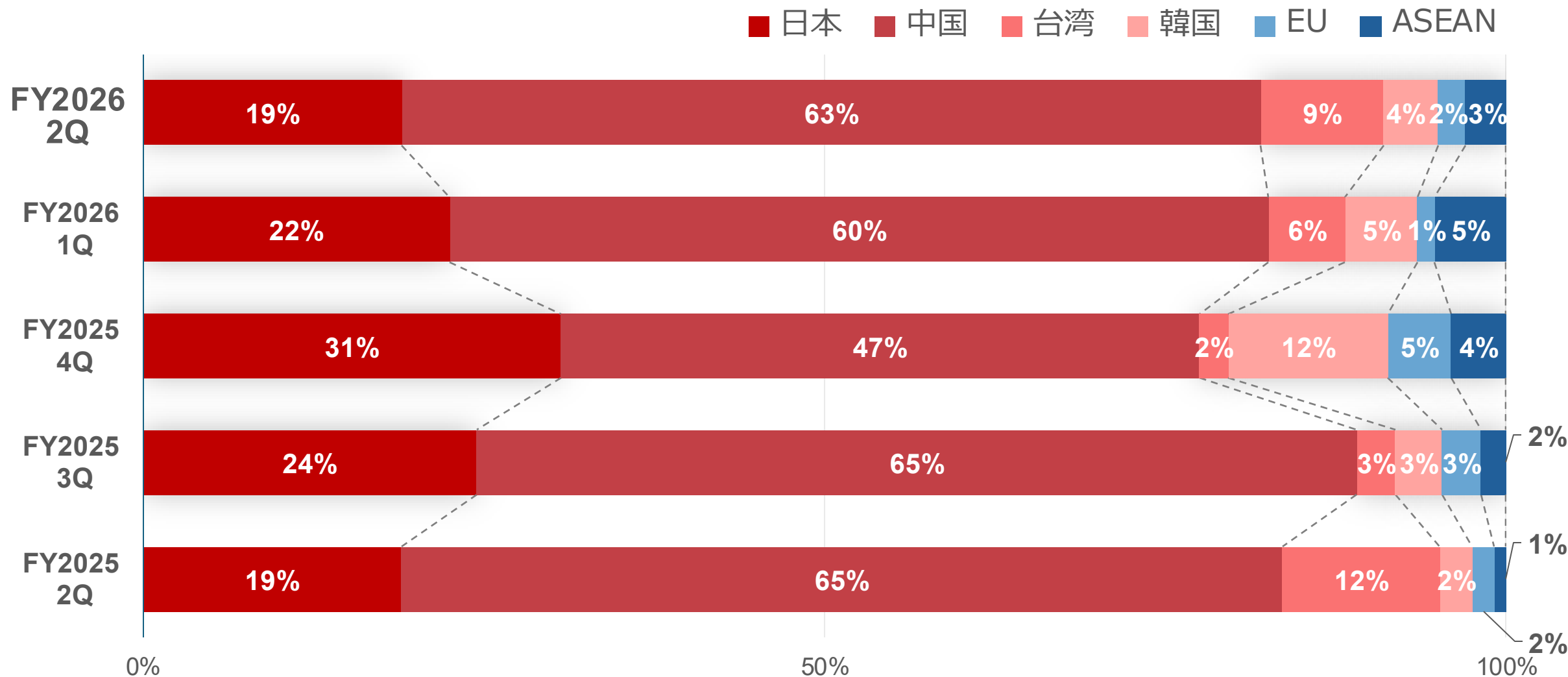
- 1 2026年3月期第2四半期（中間期）決算について
- 2 2026年3月期 通期業績予想
- 3 高機能材料事業**
- 4 デジタルツイン事業
- 5 第6次中期経営計画進捗
- 6 会社概要

【日本】売上推移（四半期）

単位：百万円

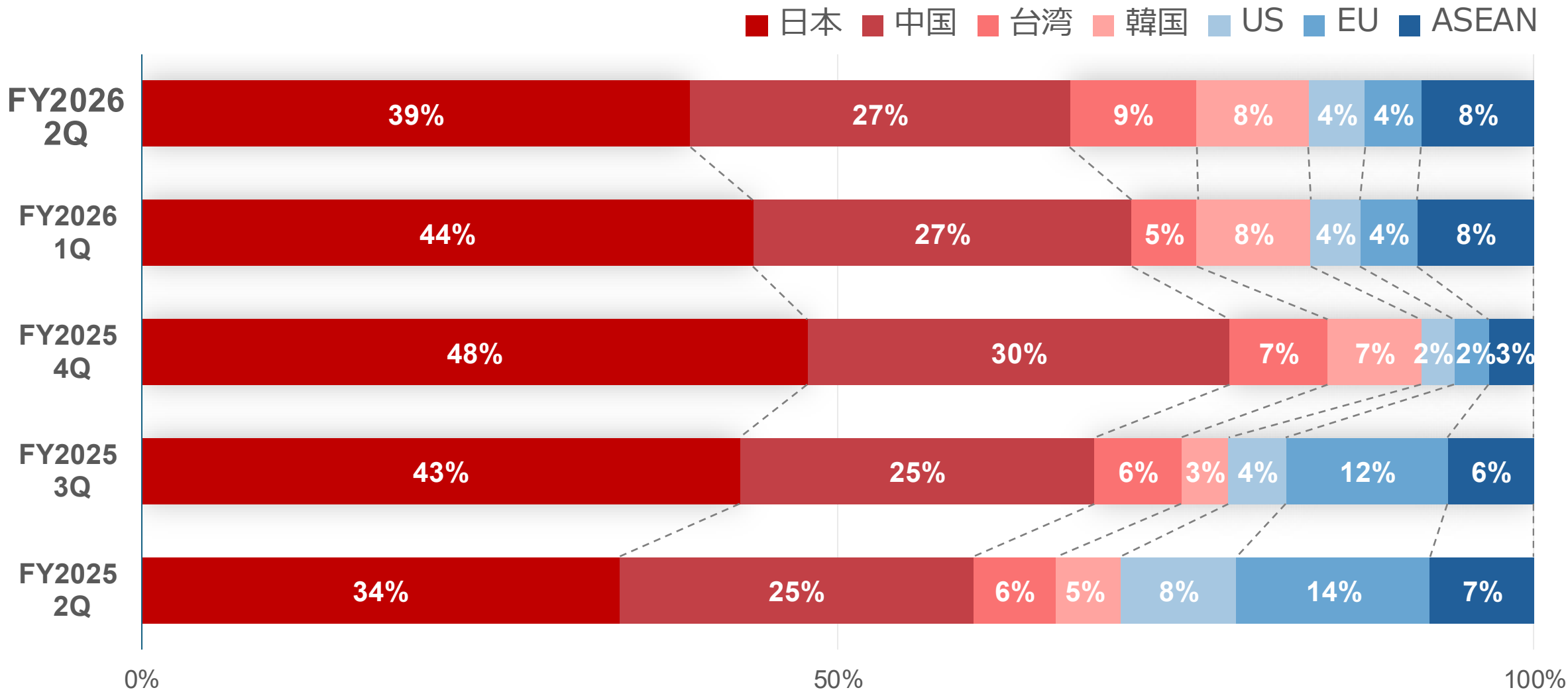


【日本】 通信機器 エリア別 主要製品 売上構成※



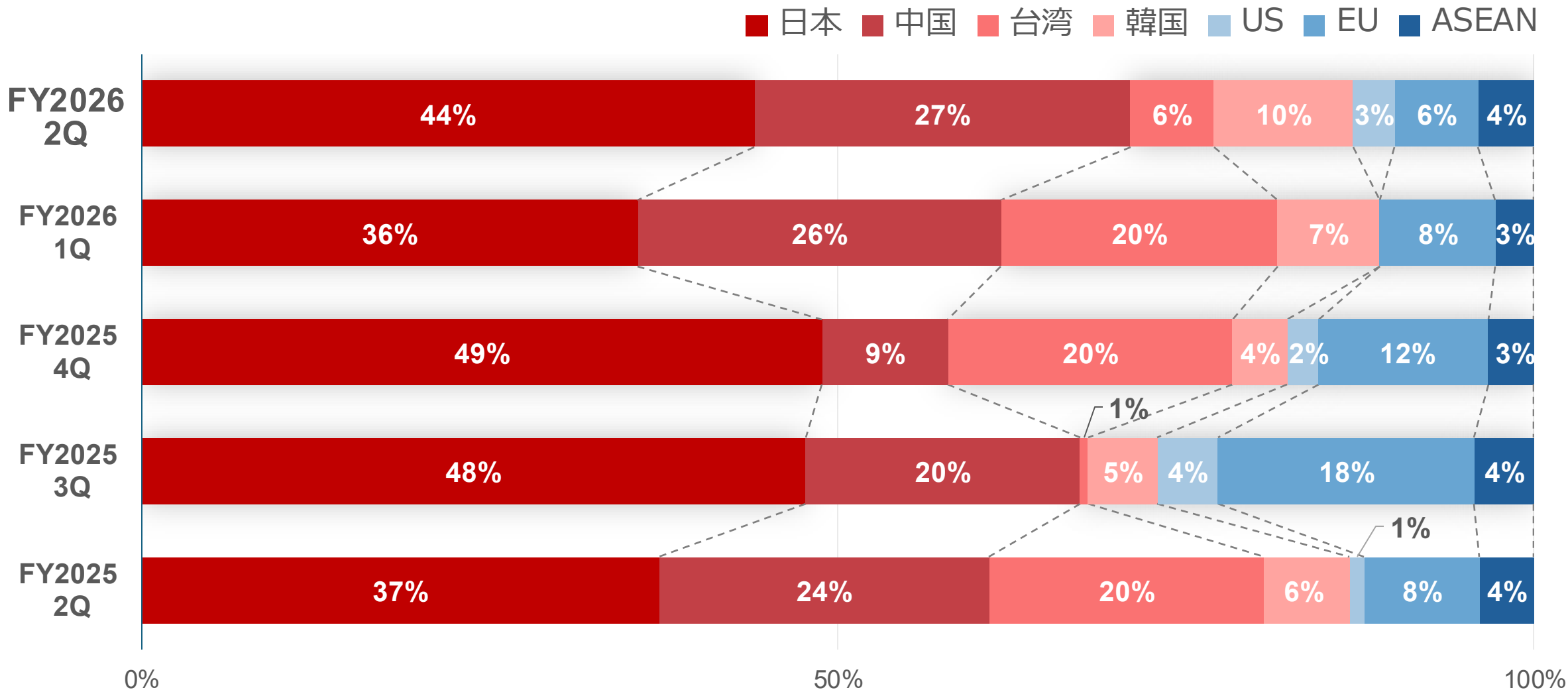
※主要製品：粘着、遮光、拡散、ハードコート、サンドブラスト

【日本】 輸送機器 エリア別 主要製品 売上構成※



※主要製品：粘着、遮光、拡散、ハードコート、サンドブラスト

【日本】産業機器 エリア別 主要製品 売上構成※

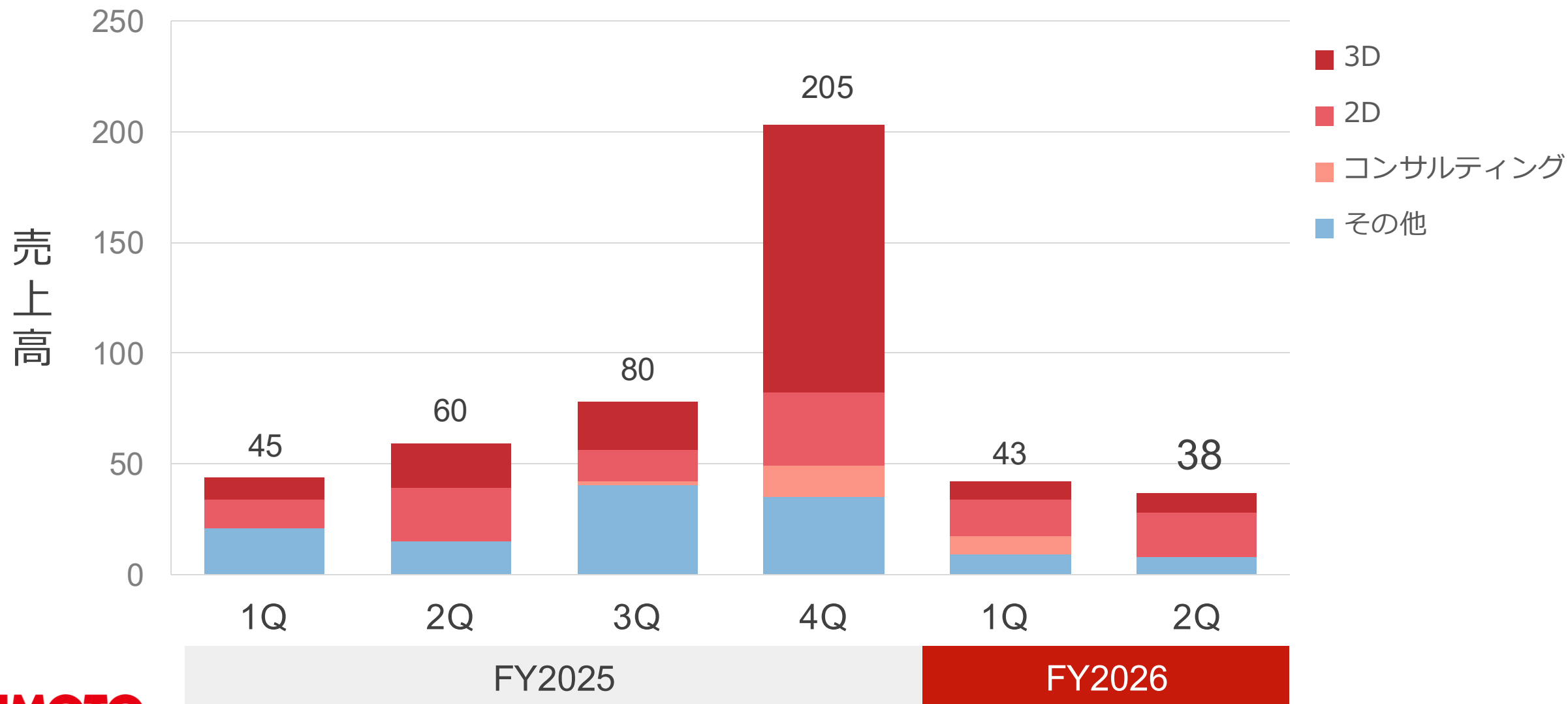


※主要製品：粘着、遮光、拡散、ハードコート、サンドブラスト

- 1 2026年3月期第2四半期（中間期）決算について
- 2 2026年3月期 通期業績予想
- 3 高機能材料事業
- 4 デジタルツイン事業**
- 5 第6次中期経営計画進捗
- 6 会社概要

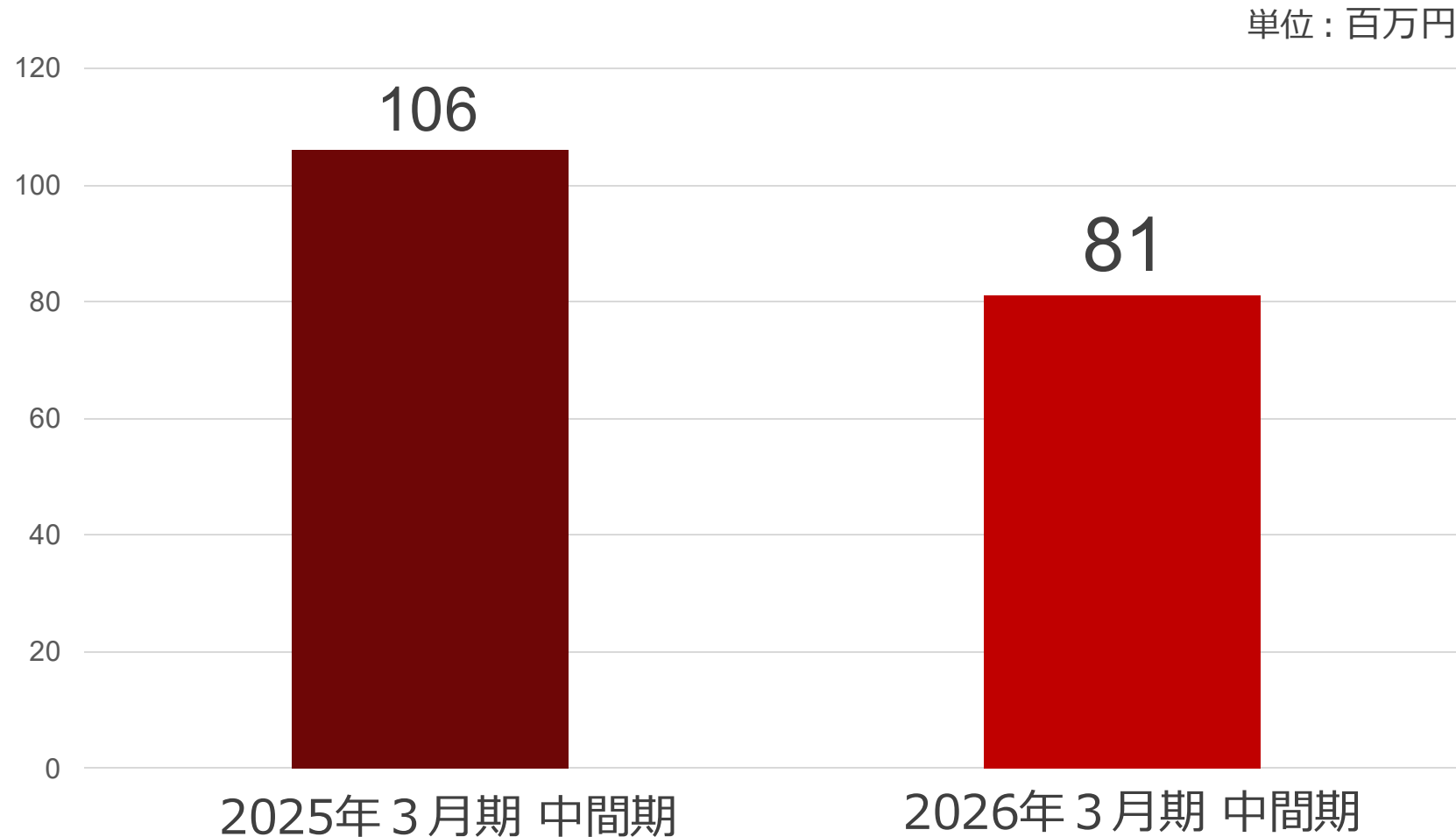
【日本】デジタルツイン事業売上推移（四半期）

単位：百万円



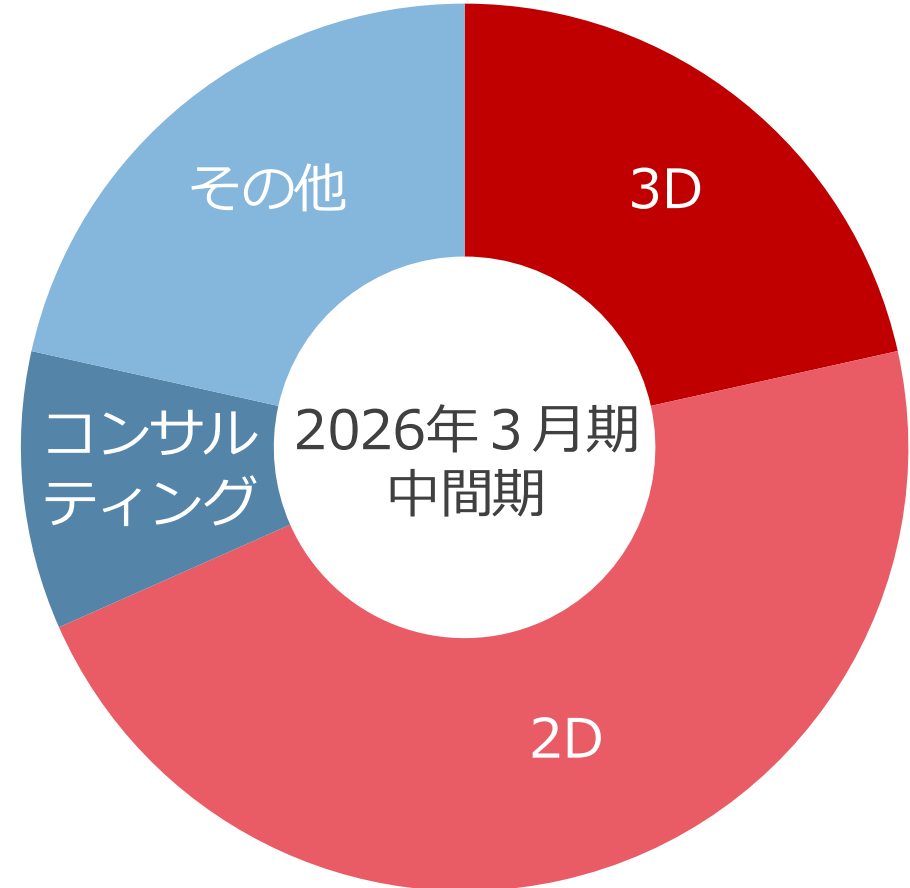
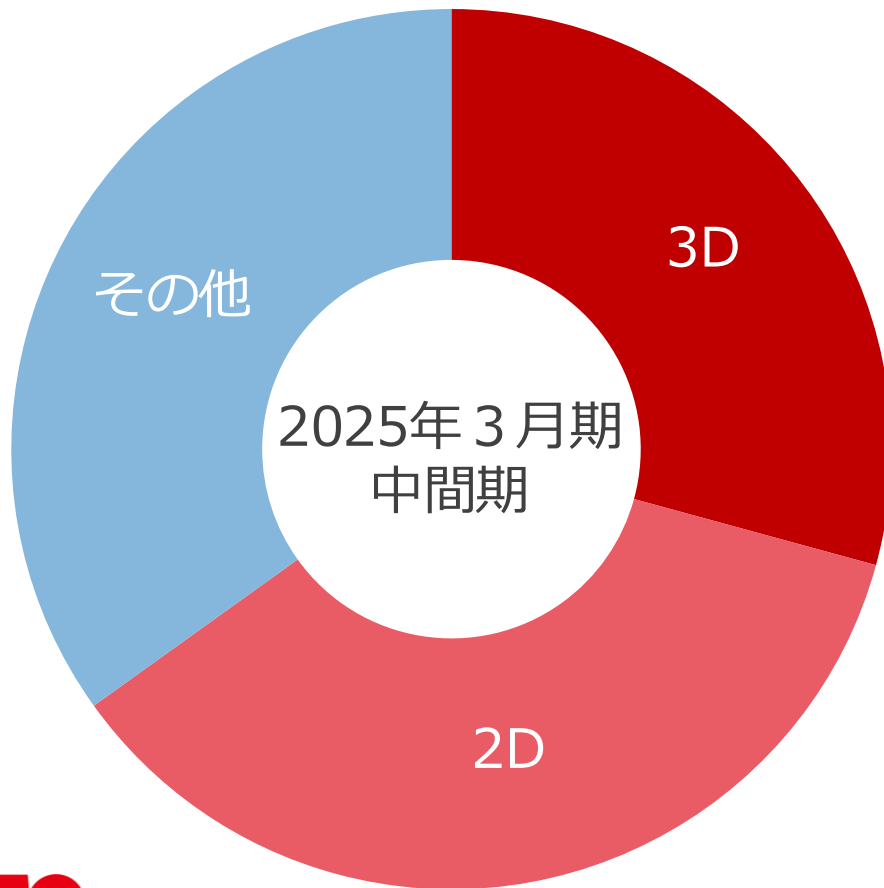
【日本】デジタルツイン事業売上高

■ 3D関連において、BIM/CIMモデル作成業務、LiDARの案件が減少傾向となっております。



【日本】 デジタルツイン事業売上高構成

- 3D関連は引き続き課題となっております。コンサルティング関連では、働き方改革および製造DXに関する伴走支援の売上が増加いたしました。



- 1 2026年3月期第2四半期（中間期）決算について
- 2 2026年3月期 通期業績予想
- 3 高機能材料事業
- 4 デジタルツイン事業
- 5 第6次中期経営計画進捗**
- 6 会社概要

2026年3月期 第2四半期（中間期）の進捗

事業成長

- ・ **デジタルツイン事業 2028年3月期売上高 1,000百万円（目標）**

複数の画像から3Dシーンを再構成する革新的な3D技術「ガウシアンスプラッティング」を活用した新サービス「SPLAT TWIN」は良好な反応を得ており、多方面から引き合いをいただいております。

コンサルティングサービスにおいては、働き方講演会の開催やイベントへの登壇を通じて、商談機会の拡大を図っています。

- ・ **環境対応 2028年3月期CO2排出量 65%減（目標）**

茨城工場において、エネルギー使用量の計測・見える化を開始し、運用最適化に向けた取り組みを進めています。これにより、省エネ分析の強化と環境負荷のさらなる低減を図っています。

- ・ **高機能性液 2028年3月期売上高 300百万円（目標）**

KIMOTOのコア技術を活かし、多様な素材・機能・塗工方法に対応した高機能性液を海外展示会で紹介し、ワールドワイドな市場への展開を進めています。

2026年3月期 第2四半期（中間期）の進捗

企業マネジメント

・IT・DX戦略

IT・DX戦略の一環として、AIを活用した業務支援ツールを導入し、社内勉強会を通じて活用促進を進めています。生産性の向上と付加価値業務への集中を進めています。中期経営計画に掲げたDX推進の施策として、着実に取り組みを進行中です。

・人材戦略

世界的な視野と実行力を備えたマネジメント人材の育成を目的に、グループや部門の枠を超えた研修プログラムを実施しています。多様な人材が学び合う環境を通じ、次世代リーダー候補の視座を高め、グループ全体での成長を加速させます。

第6次中期経営計画 資料および動画のご案内

- ▶ 資料PDFはこちらから

<https://www.kimoto.co.jp/application/files/9117/5015/1736/20262028.pdf>

- ▶ 動画のご視聴はこちらから

https://www.kimoto.co.jp/investor/news_20250523

- 1 2026年3月期 第2四半期（中間期） 決算について
- 2 2026年3月期 通期業績予想
- 3 高機能材料事業
- 4 デジタルツイン事業
- 5 第6次中期経営計画進捗
- 6 会社概要**

会社概要

社名	株式会社 きもと （英語表記：Kimoto Co., Ltd.）
創立	1952年7月2日
代表者	代表取締役社長 小林 正一
所在地	〒511-0411 三重県いなべ市北勢町京ヶ野新田450
資本金	32億74百万円
従業員数	連結：432名／単体：355名（2025年3月末日現在）
売上高	連結112億円（2025年3月期）
上場市場	東証スタンダード市場（証券コード：7908）



創業当時
航空写真現像・図面複製業務の様子

創業社長
木本 氏仁

おかげさまで
数々の賞と選定を
いただいております



令和5年度 Nextなでしこ
共働き・共育て支援企業
（経済産業省選定）



日経サステナブル総合調査
スマートワーク経営編 3.5星
（日本経済新聞社）



日経サステナブル総合調査に
基づくスマートワーク経営に
優れた企業として選出
（日本経済新聞社）

- 建設事業関係功労者等
国土交通大臣表彰
- 日本国土調査測量協会より
国土交通大臣表彰を受賞

沿革



国内・海外拠点



- 国内主要拠点
- 海外主要拠点
- リモート拠点

海外 Overseas

アメリカ／ジョージア州



コーティングマシン「Line2」

塗工幅	MAX 1,550mm
塗膜厚み	MAX 100μm
塗工	ダイ、グラビア、バー

少量塗工機「LC3」

塗工幅	MAX 770mm
基材	PET、アクリル、TAC、PC
塗工	ダイ、グラビア、バー



国内 Japan

三重県／三重工場



コーティングマシン

塗工幅	MAX 1,600mm
塗膜厚み	0.5μm～40μm
Clean Class	
作業エリア	Class 1,000
コーティングマシンエリア	Class 1,000
コーティングヘッド	Class 100

茨城県／茨城工場



サンドブラストマシン

加工幅	MAX 1,300mm
加工厚み	25μm～350μm
加工粗さ	0.3μm～0.8μm

少量塗工機「APOLO」

塗工幅	MAX 300mm
基材	PET、アクリル、TAC、PC
塗工	ダイ、グラビア、バー

中国／瀋陽



データセンター

BIM/CIMデータ作成
3Dデータ作成
製造業DX向けデータ作成
アプリケーション開発

事業内容



機能性フィルム開発・製造
高機能性液開発・製造

高機能材料 事業

High Performance
Materials



働き方改革
製造業DX

コンサルティング 事業

DX Consultant

デジタルツイン 事業

Digital Twin



BIM／CIMデータ
アプリケーション開発

KIMOTO

Building
a New Era
of Value



ファーム 事業

Kimoto Farm



地域活性活動
米栽培
ダリア園運営



つながる“すべてのモノ”が環境にやさしくあるために
私たちのノウハウで貢献する未来

本資料は情報提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。
本資料（業績見通しを含む）は、現時点で入手可能な情報と合理的であると判断する一定の前提に基づいて当社が作成したものであります。
実際の業績等は様々な要因により、大きく異なる結果となる可能性があります。